

資料

2021年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・濱村研吾

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。2021年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が48件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所・県警察等の県機関から28件、市町村から9件、民間業者から1件、一般県民から10件であった。前年度4件の問い合わせがあった特定外来生物ヒアリ類疑い種の同定依頼は3件、前年度6件であったゴケグモ類疑い種の同定依頼は9件であった。また、同じく特定外来生物のツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼は7件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、アリ、ハチ、クモ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2021年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については一般的な不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類疑い種（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ）の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、ヒアリ類疑い種（ヒアリ、アカカミアリ）の同定依頼、生物多様性・外来種に関する一般的な質問、その他、の7項目に区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2021年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全

体で48件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは8月の11件で、次いで5月が9件、7月と10月が5件であった。全体の問い合わせ件数は2010年度が24件、2011年度が24件、2012年度が57件、2013年度が68件、2014年度が52件、2015年度が51件、2016年度が55件、2017年度が54件、2018年度が57件、2019年度が62件、2020年度が49件であり¹⁾、問い合わせ件数は前年度と同様であった。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの質問の仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は過去と比較して、大きな違いはなかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種同定依頼	2	5	1	2	3		2		4	1		3	23
ゴケグモ類疑い		1	1	2	4		1						9
マダニ類疑い													0
ツマアカスズメバチ疑い		1	1		1	3	1						7
ヒアリ類疑い		1			1		1						3
生物多様性・外来種				1									1
その他		1	1		2			1					5
計	2	9	4	5	11	3	5	1	4	1	0	3	48

問い合わせの具体的内容は不明種に関する同定依頼が23件と最も多く、次いでゴケグモ類疑い(9件)が多かった(図2)。ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった9件のうち、セアカゴケグモであったのは5件で、その他はオオヒメグモ(3件)、マダラヒメグモ(1件)であった。ツマアカスズメバチ疑い種として問い合わせがあった7件は、キイロスズメバチ(3件)、コアシナガバチ(2件)、ヒメスズメバチ(1件)、コガタスズメバチ(1件)であった。また、ヒアリ類疑い種として問い合わせがあった3件はいずれもヒアリではなく、ヒメアリ(1件)、不明(2件)であった。

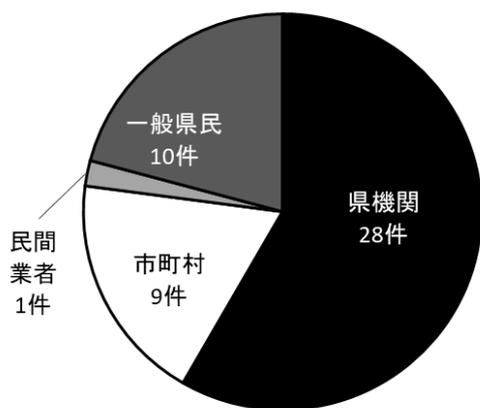


図1 2021年度における問い合わせ元の件数

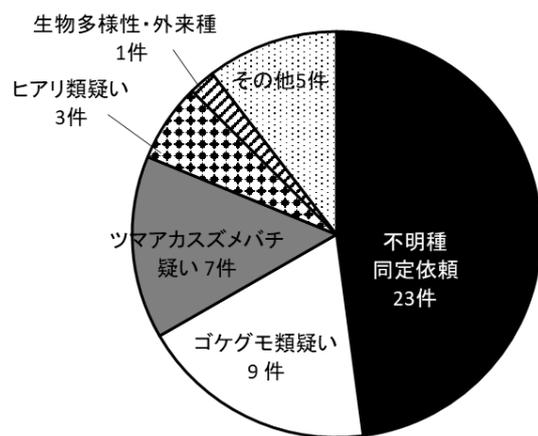


図2 2021年度における内容別の問い合わせ件数

不明種同定依頼において種まで同定できたのは、シロマダラ(2件)、アライグマ、コガモ、オオミズナギドリ、ダイサギ、ハイタカ、メジロ、シマヘビ、ワニガメ、ヘルマンリクガメ、プチサンショウウオ、タゴガエル、ヌマガ

エル、タカハヤ、アリアケシラウオ、ハルゼミ、コガタノゲンゴロウ、マツカレハ、ルリアリ、アシダカグモが1件ずつであった。このうちコガモ、オオミズナギドリ、ハイタカは鳥インフルエンザ検査対象種としての同定依頼に対応したものである。

ペットの遺棄・逸出由来としてはヘルマンリクガメ、ワニガメが各1件ずつあった。このうちヘルマンリクガメは八女市の路上で拾われたもの、ワニガメは太宰府市(御笠川)で発見されたものである(図3)。本個体は通行人が発見、太宰府市役所に連絡があり、当所に相談があったもので、当所の近郊地であったことから採捕にも協力した。この個体については民間の保護施設が引き取っている。ペットの野外への遺棄は新しい外来種問題につながるものであり、今後もこうしたことが起こらないよう啓発を続けることが必要と思われる。



図3 太宰府市(御笠川)で捕獲されたワニガメ

本報をまとめるにあたり、クモ類の同定に際してご教示いただいた馬場友希博士(国立研究開発法人農業環境技術研究所)、爬虫類の同定に際してご教示いただいた田原義太慶氏、アリ類の同定に際してご教示いただいた細石真吾博士(九州大学)にこの場を借りてお礼申し上げます。

文献

- 1) 中島 淳、石間妙子、埴 麗文ら：福岡県保健環境研究所年報，48，124-125，2021.